

岩手県職労

月2回刊=1461号
2016年5月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所
盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

年に一度の加入・見直しのチャンスです
じちろうセツト共済
遺族附加年金共済「あとおし」
締切：6月17日(金) ※本部着
詳しくは各支部書記局まで

参議院選挙勝利 『吉田ただとも』支持拡大を!



5.23総決起集会で決意を述べる吉田ただとも参議院選挙首
非正規雇

「安倍」暴走政治を止めよう

5・23「吉田ただとも」勝利総決起集会開催

5月23日、自治労本部構成単組を中心に7月の参院選での社民党党首「吉田ただとも」勝利に向け、総決起集会を開催。吉田党首から本選挙の争点と立候補に向けた熱い決意表明があり、勝利に向け意思統一した。

「吉田ただとも」さんは「3年半に及ぶ安倍政権に今回の参議院選挙の焦点を審判を下すこと」、「憲法改悪を許さない」の2点を掲げた。「アベノミクスの経済政策は格差拡大、不正規雇

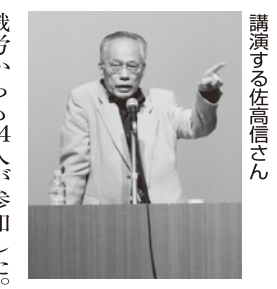


吉田ただとも勝利へ団結ガンパロー

「安倍政権を斬る！」佐高氏が講演

5・14県民総決起集会開催

5月14日、戦争させない！岩手県委員会（平和環境県センター・社民党県連合等で構成）主催の「安倍政権を打ち倒そう！戦争させない県民総決起集会」が県公会堂で開催され、県内労組や市民グループ等を中心



講演する佐高信之助さん

憲を許してはならない。野党共闘で自公勢力を過半数割れに追い込むことが必要だ。平和憲法を護るために「吉田ただとも」勝利のため支持をお願いします」との熱い決意を述べた。最後に齋藤選対委員長（自治労本部執行委員長）の団結ガンパローで、勝利に向けた意思統一を行った。

選挙戦まで1カ月を切り戻すためにも、家族・友人等への「吉田ただとも」の支持拡大をお願いします。

「今何をすべきか」ヒントももたらした

5月21日青婦部は、新組合員を集めて「青婦部春の交流会」を開催し、県内各地から27人の仲間が集まった。

ミニ学習では、労働力の再生産の必要性や労働組合の意義、組合で取り組んでいくべきことなど共有した。先輩組合員は、「岩手県職員として働く理由を忘れないために、心身共に健康で働くことも必要だし、働くことについての知識や考え方を身につけて行動していく必要がある」と話し、働く者の考え方をアドバイス。分散会では「1カ月半働いて」の感想を出し合った。「先輩も忙しそうで声をかけるのが申し訳ない」「残業は、自分が仕事を効率的にできなかったから、残業したことを言えない」など職場で感じた声が出された。また、公舎の共益費が高

第15回定期大会のポイント

職場実態を基にした改善要求を

県職労は6月11日に第15回定期大会を開催し、向こう1年間の運動方針を確認する。大会に当たり、主な課題は次の点となる。

○新採加入促進、支部・分会からの組織強化
県職労の組織強化と、具



大崎書記長

体的な取り組みを進めるため、新採用者・未加入者の加入促進を取り組み、組織の拡大・強化を図る。併せて活動の基点となる支部・分会単位での学習・交流を推進し、役員の育成と組織強化を図る。

○賃金・手当の改善

今年4月から給与制度の総合的見直し導入され、現給保障対象となる職員が約4割に上り、賃金が上がらない状況が作られている。併せて手当では、通勤を中心に支給額が不足し、自己負担を強いられている。勤務意欲が持てる賃金・手当を交渉で求めてきたが、まだ不十分である。賃金は生活の糧であり要求実現に、重点的に取り組む。

○人員の確保・不払い

残業の撲滅

今年4月の欠員は全体で139人と昨年に続き非常に多く、業務を進めるに当たり支障になっている。復興業務はもちろん、いわて国体開催に向け、人員が必要であるが、県内でも人員不足が続くなど、確保できないのが実態である。

このことに伴い超勤が増えているが、予算不足を理由に不払いにさせられてい

る実態が多く職場から上がっている。当局は予算確保していると言っているが、現場と乖離があることが明らかである。

このことから、人員確保を強く求めるとともに、超勤不払いの実態を摘発し、予算確保と実態に則した支給をさせるため取り組みを強化する。

職場からの要求を基に賃金労働条件の改善要求を基



ミニ学習会や分散会で交流を深めた「春の交流会」

く支払いが大変なことや賄いが無い独身寮では、キッチンも自由に使えず、料理を作るのにも苦労しているなど、厳しい実態を伺えた。参加者からは「働き方や今何をすべきかヒントをもらえた」「組織の力はすごいし、頼もしいと思った」という感想が寄せられた。

新採用職員は、今の厳しい職場実態、職場環境についていこうと懸命だが、そうした働き方や生活が当たり前と感じるのではなく、働く者の視点を持ち、健康で安心して働き続けられるためのヒントを得られた。組合員の皆さんも新入組合員のフォローをよろしくお願ひする。

第五世代

熊本・大分を中心とする大地震から1ヶ月が経過した。死者・行方不明者は50人に及び、建物被害の多かった今回の地震で、多くの避難者が自宅に帰ることが出来ず、不慣れた生活を強いられている。熊本県内の避難者の3割が集中する益城町では、町職員1人あたりの避難者数が20・6人と、東日本大震災のピーク時（13・4人）を超えている。益城町の職員数は、わずか165人。罹災証明の発行等、未経験業務が集中する中、職員負担の重さは深刻だ。東日本大震災当時、岩手県職員の慢性的な人員不足の状況が、住民の要望に応えられない実態を招いた要因では？と県議会でも取り上げられたが、今回の九州の震災においても、残念ながら同様の事態に陥っている。歴代の自民党政権が唱えてきた「小さな政府」構想は、定数削減と地方交付税減額という政策に集約され、結果、非常時にこそ住民に寄り添える体制が奪われている。大災害の時にだけ公務員の人員不足が目立られる。実態は、住民にとっても不幸な現実だ。行革合理化が真に住民のための政策なのか、政府姿勢を正す時期ではないだろうか。

現業評・新体制確立

遠藤議長 武田事務局長を選出

人員確保・賃金改善に全力を

県職労現業評議会は5月13日、2016年度の役員選挙を行い、新幹事体制を確立した。議長は昨年引き続き遠藤哲美さん(総務部管財課分会)が再選。事務局長には武田溪介さん(盛岡支部・畜産研究所分会)を新たに選出した。新体制では今後、独自要求の取りまとめを行い、確定期に向け人員確保や賃金改善などの課題解決に全力をあ

けることになる。新幹事体制は次のとおり。

議長

遠藤 哲美(総務部管財課)

副議長

小笠原一也(総務部管財課)

菅原 薫(畜産研究所)

事務局長

武田 溪介(畜産研究所)

事務局次長

吉田 光幸(総務部管財課)

幹事

西堀 誠寿(議会事務局)



遠藤哲美議長



武田溪介事務局長

学習 政治闘争

安倍政権下で社会は怎么样了(No.1)

6月22日公示・7月10日投開票予定の参議院議員選挙まで1カ月を切った。今回の政治闘争の争点を3回シリーズで解説する。

第一回 地方自治はどこへ

止まない公務員ハッシング

2012年12月の安倍政権発足後、政府は復興財源確保のための賃金削減を地方自治体に強要し、さらに退職手当約400万円の削減など、公務員

の賃金削減を推し進めてきた。直近では、岩手を含む民間賃金下位の12県を基準にした地域間配分の見直しと、高齢層職員の賃金が民間よりも高いことを狙い撃ちにした世代間配分の見直

露骨な地方介入

安倍政権は地方への配分権限を握っている地方交付税を人質に地方公務員の給

地方創生 名ばかり?

安倍政権は「一億総活躍社会の実現」と併せて、地方創生を掲げ、各自治体の創意工夫のある地域づくりを進めてきている。地域振興の名の下、自らの政策に

アベノミクス」の効

果はほんの一部の大企業が空前の利益を挙げる一方で、地場中小企業の賃上げは足踏みし、地方経済は一向に好転していない。安倍政権で地方は疲弊する一方である。

西野 聖(畜産研究所) 松本 徹(畜産研究所) 西野 哲仁(農業研究センター) 宇都宮政彦(岩手県庁)

あえて視野を狭くして 被災3県自治体女性のつどい

5月14日、自治労本部が主催する「被災3県の自治体で働く女性のつどい」が昨年の宮城県に続き福島県で開催された。岩手県職労からも3人の仲間が参加し、次の感想が寄せられた。 基調講演で、精神科医の香山リカさんからは「人生を楽しむコツ、教えます」と題した講演を受けた。「こう思うことは失礼じゃないか。こうすべきではないか」と思うことが自分を縛り、ストレスにつながっている。今の社会はこう思ってしまうことが多い社会だからこそ、これをできるだけ減らすことが必要。あえて視野を狭くしよう」と話した。



真剣に聞き入る中川青婦部長

はできることを頑張ろう」と思い、本当の辛い気持ちを隠して自分を縛っている姿をよく目にする。ストレ

視点を変え 本質を見抜いて行動しよう

平和の火の夕べ開催

5月20日、県公会堂で「平和の火の夕べ」が開催された。「月刊労働組合」編集長の松上隆明さんから、「桃太郎」を鬼の立場から描いた芥川龍之介の小説を引用し、世界各地でテロが頻発する原因を分かりやすく解説いただいた。侵略が憎しみを生み、復讐という負の連鎖がいつまでも続いている現代。視点を変え、本質を見抜くことが必要不可欠

学生に「労働組合の意義」伝える

連合岩手・岩大と連携して講座

連合岩手では、岩手大学と連携して、学生に対し、社会のしくみ・労働組合の意義や役割などを交えた講座を開いている。5月16日には、県職労からも中川青婦



岩大での講座の様子

だと気づいた。 私たちは、6月10日から12日に開催される「反核・平和の火リレー」をはじめ、平和を訴え続ける取り組みの大切さについて、改めて学ぶことができた。(県庁支部・藤村秀樹)

北支部に臨時書記

4月から加藤ひろみさん

4月1日から北支部に加藤ひろみさん(臨時書記)が配属になりました。加藤さんからは「慣れない面もあるかと思いますが、一生懸命頑張ります」との決意を頂いています。組合員の皆様のご協力をお願いします。



加藤ひろみさん

学生からは「法律で権利が保障されていても、主張できる環境がなければ形骸化する」「おかしいことにはおかしいと言える、心の強さと勇気も必要だ」など感想が寄せられた。

みんなで 加入しよう!

詳しくはパンフレットをお読みの上、所属する組合までお問い合わせ・お申し込みください

全労済 全国労働者共済生活協同組合連合会 自治労共済本部 全日本自治体労働者共済生活協同組合

Illustration of people talking about insurance benefits. Text includes: 'ケガのときは、通院だけでも保障するんだって' (When injured, even just hospitalization is covered), 'ケガや病気のときは日帰り入院から保障するんだよ' (When injured or sick, even day-hospitalization is covered), 'もちろん万が一の場合は、家計に優しい掛金で大きな安心!' (Of course, in the event of an accident, with a premium that's easy on your budget, you get a big peace of mind!), '組合員同士の助け合いだからできた、充実した保障だね' (It's because of mutual aid among members that we have such comprehensive insurance, isn't it?).

団体 生命 共済